

## 音読検定の出題範囲と審査基準について

5級	
レベル	古代の和歌の音読
主な出題範囲	<ul style="list-style-type: none"><li>●基礎発声</li><li>●カタカムナ5・6首</li><li>●古事記（創世の神々、スサノオノミコトの歌）</li><li>●万葉集（雄略天皇の歌）</li><li>●古今和歌集（仮名序）</li></ul>
審査基準	<ul style="list-style-type: none"><li>●基礎発声ができていること</li><li>●うたい読み（カタカムナ読み）をマスターしていること</li><li>●5つの読み方（うたい読み、1音1音読み、スラスラ読み、祝詞読み、ののしり読み）を読めること</li><li>●読み間違えても訂正して読み直すこと</li></ul>

4級	
レベル	平安時代文学の音読
主な出題範囲	<ul style="list-style-type: none"><li>●竹取物語（冒頭部分）</li><li>●伊勢物語（初冠冒頭）</li><li>●土佐日記（冒頭部分）</li><li>●枕草子（第1・2段）</li><li>●源氏物語（桐壺冒頭）</li><li>●更級日記（冒頭部分）</li><li>●大鏡（三船の誉れ冒頭部分）</li></ul>
審査基準	<ul style="list-style-type: none"><li>●基礎発声をマスターしていること</li><li>●女流平安文学を水の流れのようにさらさらと読めること</li><li>●大鏡を強く読めること</li><li>●読み間違えても訂正して読み直すこと</li></ul>

3級	
レベル	中世の散文・和歌の音読
主な出題範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>●方丈記（冒頭部分）</li> <li>●平家物語（祇園精舎、扇の的冒頭部分）</li> <li>●徒然草（序段、第11段）</li> <li>●梁塵秘抄</li> <li>●高砂</li> <li>●風姿花伝（七歳冒頭部分）</li> </ul>
審査基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>●徒然草をスラスラ読めるか</li> <li>●3級テキストがスラスラ読めるか</li> <li>●読み間違えても訂正して読み直すことができるか</li> </ul>

準2級	
レベル	江戸期以降の散文・和歌の音読
主な出題範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本朝永代蔵（冒頭部分）</li> <li>●奥の細道（冒頭部分）</li> <li>●東海道中膝栗毛（冒頭部分）</li> <li>●南総里見八犬伝（冒頭部分）</li> <li>●学問のすすめ（冒頭部分）</li> <li>●舞姫（冒頭部分）</li> <li>●にごりえ（冒頭部分）</li> </ul>
審査基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>●すべてスラスラ音読できること</li> <li>●読み間違えても訂正して読み直すこと</li> <li>●意味が伝わる速さであること</li> <li>●読み間違えても訂正して読み直すこと</li> </ul>

※減点方式です。失敗することよりも間違えたことに気付かないまま音読すると大幅減点となります。なお、1・2級の出題については、理事会の精査中です。